分科会· 特別分科会



「有徳の人」づくり

~未来のために行動する「一人」を育てよう~

分科会一覧

分科会・特別分科会が対象

分科会・特別分科会は、音声と発表データを収録した DVD を 96 ページに貼付しましたので、ご覧下さい。

	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
テーマ	学校教育とPTA 「有徳の人」を育てる 学びの場の充実	進路指導とPTA 「有徳の人」を育てる 希望進路の実現	生徒指導とPTA 「有徳の人」を育てる 「命を守る教育」の推進	家庭教育とPTA 「有徳の人」を育てる 家庭教育の充実
会場	アクトシティ浜松 大ホール	マリナート 大ホール	静岡市民文化会館 大ホール	エコパ サブアリーナ
発表形式	事例発表と研究協議	事例発表と研究協議	事例発表と研究協議	事例発表と研究協議
助言者	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学部文化政策学 小杉 大輔	静岡大学 学術院教育領域・ 教職大学院系列教育学部 教授 山崎 保寿	常葉大学大学院 初等教育高度実践研究科 教授 石川 美智子	静岡産業大学 教授 漁田 俊子
切 古 旬	株式会社 NOKIOO 静岡大学 学術院融合・ ON-MO プロジェクト グローバル領域 学生支援センター	静岡県教育委員会 高校教育課 指導監 神田 不二彦	静岡大学 教育学部 非常勤講師 石田 純夫	
	青森県立八戸工業高等学校 PTA会長 橋本 修	山形県立鶴岡南高等学校 PTA会長中場勝	千葉県立君津青葉高等学校 PTA本部役員 石井 ますみ (顧問)	北海道室蘭清水丘高等学校 PTA会長 伊藤 義幸
発表者	山梨県立甲府昭和高等学校 PTA会長 小林 淳	岐阜県立中津高等学校 PTA会長 市川 賢一	富山県立富山西高等学校 PTA会長 山□ 尚稔	東京都立板橋高等学校 PTA会長 大城 のり子
	石川県立小松高等学校 PTA会長福島知朗	大阪市立大阪ビジネスフロン ティア高等学校 前PTA会長 大橋 妙子	愛知県立春日井工業高等学校 PTA会長 大塚 令子	兵庫県立尼崎稲園高等学校 PTA会長 武田 康子
	島根県立矢上高等学校 PTA会長 大屋 光宏	宮崎県立高鍋高等学校 PTA会長 六車 順子	熊本県立天草工業高等学校 育友会会長 野上 辰雄	香川県立高瀬高等学校 PTA副会長 矢野 智昭
全国高等学校 PTA連合会 担当役員	全国高P連 理事 金田 淳	全国高P連 理事 渡辺 正和	全国高P連 理事 石坂 兼人	全国高P連 理事 細渕 修
全国高等学校 PTA連合会 担当委員	全国高P連 研修委員 若宮 佳一	全国高P連 研修委員 岡田 諭	全国高P連 研修委員 奥野 貴史	全国高P連 研修副委員長 福井 玲子
班長	静岡県立浜松江之島高等学校 PTA会長 太田 宴貴	静岡市立清水桜が丘高等学校 PTA会長 鈴木 祐之	静岡県立科学技術高等学校 PTA顧問 阿部 光幸	静岡県立掛川西高等学校 PTA会長 中山 善文
副班長	静岡県立浜松江之島高等学校校長 大谷 治男	静岡市立清水桜が丘高等学校 校長 渡邉 紀之	静岡県立科学技術高等学校校長 遠藤 克則	静岡県立掛川西高等学校校長 土井 宏晃
主任	静岡県立浜松江之島高等学校 副校長 田中 洋	静岡市立清水桜が丘高等学校 副校長 髙塚 諭	静岡県立科学技術高等学校副校長高橋昌利	静岡県立掛川西高等学校 教頭 山崎 裕子
副主任	静岡県立浜松江之島高等学校 総務主任 渥美 淳一	静岡市立清水桜が丘高等学校 総務課担当 山崎 昌子	静岡県立科学技術高等学校総務主任 成島 修	静岡県立掛川西高等学校総務主任 笠原 均
司会	静岡県立浜松江之島高等学校 PTA顧問 西尾 進治	静岡市立清水桜が丘高等学校 PTA副会長 奥山 紀之	静岡県立科学技術高等学校 PTA副会長 大石 恵子	静岡県立掛川西高等学校 PTA 夏目 美穂
	静岡県立浜松江之島高等学校 PTA庶務 伊藤 佳巳	静岡市立清水桜が丘高等学校 PTA広報委員長 佐野 千明		静岡県立掛川西高等学校 PTA監事 小泉 佳世子



	全国高P連研究発表	特別第1分科会	特別第2分科会
テーマ	ネットトラブルの予防と対策	「有徳の人」を育てる 防災・減災教育の推進 〜防災・減災能力の醸成〜	「有徳の人」を育てる グローバル教育と コミュニケーション能力の育成
会場	エコパアリーナ	静岡市民文化会館 中ホール	アクトシティ浜松 中ホール
発表形式	第1部 基調講演 第2部 パネルディスカッション	基調講演と パネルディスカッション	基調講演と パネルディスカッション
基調講演 講 師	株式会社 KDDI 総合研究所 教育・医療 ICT グループ 研究主査 斎藤 長行	静岡大学 防災総合センター センター長 教授 岩田 孝仁	株式会社 mpi 松香フォニックス 会長 松香 洋子
コーディネーター	静岡大学 教育学部 准教授 塩田 真吾	静岡県総合教育センター 総合支援部高等学校支援課 高校第3班 班長 貝瀬 佳章	同上
パネリスト	静岡県立磐田南高等学校 PTA会長 太田 好洋	静岡県立藤枝東高等学校 前PTA会長 曽根 靖之	静岡県立浜松北高等学校 PTA会長 原 道也
	静岡市立清水桜が丘高等学校 3年生 先生 弾	静岡県立松崎高等学校校長 寺島 明彦	静岡文化芸術大学文化政策学部 国際文化学科 4年生 田中 琢問
	静岡市立清水桜が丘高等学校 教諭 柳本 直輝	富士市地域防災指導員会 会長 高澤 勝彦	静岡県立浜松北高等学校 2年生 袴田 大晶
	総務省総合通信基盤局電気通信事業 消費者行政第一課 課長 徳光 歩	静岡県立富士宮北高等学校(元県防災担当) 教諭 加藤 正樹	浜松市立高等学校 2年生 大髙 日菜美
		静岡県立藤枝北高等学校 3年生 押尾 真吾	
		静岡県立藤枝北高等学校 2年生 波多野 淳	
全国高等学校 PTA連合会 担当役員	全国高P連 理事 仲西 春雅	全国高P連 理事 玉田 圭司	全国高P連 理事 板谷 正
全国高等学校 PTA連合会 担当委員	全国高P連 研修委員長(理事) 池本 義信	全国高P連 研修委員 中井 太一郎	全国高P連 研修委員 植村 武彦
	全国高P連 研修委員 小山 全司		
	全国高P連 研修委員 山本 雅之		
班長	静岡県立磐田南高等学校 PTA会長 太田 好洋	静岡県立藤枝北高等学校 PTA会長 柴山 勝広	静岡県立浜松北高等学校 PTA会長原道也
副班長	静岡県立磐田南高等学校 校長 白畑 豊	静岡県立藤枝北高等学校 校長 石川 芳恵	静岡県立浜松北高等学校校長 松本 直己
主 任	静岡県立磐田南高等学校 副校長 中山 正典	静岡県立藤枝北高等学校 教頭 川嶋 安起夫	静岡県立浜松北高等学校 副校長 太田 佳純
副主任	静岡県立磐田南高等学校 総務主任 鈴木 敦士	静岡県立藤枝北高等学校 総務主任 冨山 剛幸	静岡県立浜松北高等学校総務主任 柳本 宗春
司会	全国高P連 健全育成委員長 理事 新井田 寛	静岡県立藤枝北高等学校 PTA副会長 山口 治乃	静岡県立浜松北高等学校 PTA監事 波切 浩昭
		静岡県立藤枝北高等学校 PTA教養研修委員長中島礼子	



分科会報告

|| 全国高P連研究発

分科会・

特別分科会

「ネットトラブルの予防と対策|

趣旨 身の回りで起こりうるネットトラブルはどの ようなものがあるか?それを予防する対策と は?万が一にでもトラブルに遭ってしまった 場合の対策とは

第一部は基調講演、第二部はパネルディスカッ ションを行いました。

株式会社KDDI総合研究所教育・医療ICTグ ループ研究主査 斎藤 長行氏の基調講演で「分 かっているけどやめられないこと」がネットの問題 だという話題が出ました。人は感情で動くことが多 く、人の行動のうち、95%が無意識の下の行動で あると言われています。では、「青少年がインターネッ トを安全に安心にて活用するために | どうしたら良 いのでしょうか?

大切なことは二つ。一つは、他律(気づき)自立 (考える)。 そしてもう一方は、セルフコントロール(自 制心)の強さです。保護者が子どもに対して、スマ ホ等のやり過ぎを注意する場合、ただ要求を押し 付けるのではなく、どのようにすれば止めることが できるのか子ども自身が気付くことのできる働きか けが重要であるとのことでした。

パネルディスカッションでは、静岡県立磐田南高 等学校PTA会長の太田 好洋氏からは、子ども の友人に、SNSに許可無く写真を載せてトラブル に巻き込まれてしまったというエピソードの紹介が ありました。この経験から、個人情報の取り扱いに はご自身も子どもも十分に注意しているとありまし た。アダルトサイト等、特に子どもに気をつけて欲 しい事は、子どもに直接伝えるのではなく、トイレ にメッセージを貼って文字を通して伝えているとい う実践報告も聞くことができました。

静岡市立清水桜が丘高等学校3年生の先生 弾 (せんじょうはずむ) さんはオンラインゲームにハマっ ていた過去がある、このことから報告を始めました。

やっとの思いでゲームを止めることができたが、代 わりに今は YouTube にハマりつつあることも明かし てくれました。一度動画を見てしまうと、次から次 へと見たくなってしまう。YouTube が動画を見るこ とを止めさせてくれないと感じながら、止めること のできない自分がいることに悩んでいると言いまし た。今回の分科会を振り返り、大人と子ども、ある いは子ども同士がスマホに関するお互いの意見を交 換できる場は、有意義だと感じると話していました。

静岡市立清水桜が丘高等学校 教諭 柳本直 輝氏は、子ども同士のコミュニケーションのトラブル をすべて把握することは出来ないと日々感じている といいます。インターネット依存症となってしまい、 インターネットに関すること以外に興味関心を持て なくなってしまう、このことが大きな問題ではない だろうかと呼びかけていました。大人が模範を示し ながらも、子どもが自分自身で考え、判断し、行 動することが最も重要であると主張されていました。

また、総務省総合通信基盤局電気通信事業消 費者行政第一課 課長 徳光 歩氏からは、イン ターネットの光の部分、影の部分についての考えを 聞くことができました。フィルターリングの対象とな るのはインターネット全体の43%であり、子どもた ちにとって危険だと判断されているウェブサイトがこ んなにも多いと言いました。このことから、子ども たちの使用するインターネット環境には、是非、フィ ルターリングをかけてほしいという強い主張があり ました。また、保護者は、子どもたちに対してインター ネットの利用状況やトラブルの事例を教えることで 注意を促し、その上で、安心ネットワークの情報を 参考にしながら家庭のスマホルールを作ってもらい たいとのことでした。

最後に、コーディネーターの静岡大学 教育学部 准教授 塩田 真吾氏はまとめとして二点挙げてい ました。一点目は、教育。これは、子どもたちにイ ンターネットの使い方について振り返りをさせ、それ に対して大人が意見をすることを意味します。その 際には、大人は子どもに対して正しい情報をきちん と教えることが求められます。二点目は、冷静にな る時間を作る。これは、子どもたちは無意識の下で クリックボタンを押している場面が多いため、その ような場合における冷静さが必要であることを意味 します。子どもたちの中に冒険心もあるのだろうが、 今一度立ち止まり、冷静になる時間を作れるような 環境を整えていくことが大切であると締めくくり ました。

(仲西春雅理事・沖縄県)

第1分科会報告

「学校教育と PTA |

~ 「有徳の人」を育てる学びの場の充実~

青森、山梨、石川、島根の4県の学校より、各地 区の実情や特徴を生かした活動発表がありました。 「学びの場」という考え方に対し、対象が誰なのか? という視点において、大きく二つに分かれました。

一つ目は、「PTAは生涯学習の始まり」「PTA のOB・OG会をつくっていく」「地域の活性化を高 める社会活動としてPTAは有効な活動である」と いう考え方の発表内容があり、これは私たち保護 者自体が、学び成長の対象であるという視点です。

二つ目は、私たち保護者の活動を通じて、子ども たちを「有徳な人」に育てるという視点です。ある 学校では、フードバンク活動を行っており、その活 動を保護者が子どもたちと一緒にやることで、子ど もたち自身が、主体的に活動の意義や大切さを深く 考え、理解するようになり、このPTA活動が知ら ないうちに生徒たちを発展的な方向に進ませませて いたというものでした。また、「PTA活動が子ども たちにどのように映るかを考えると、あくまで活動 は楽しく元気に行うことが一番大切|「親の活き活 きした姿は必ず子どもたちに良い影響を与える | こ のような発言もありました。

この二つの視点のほかに

「一方通行にならない活動を意識し、アンケートをと

ることにより、きちんと現状を確認し、さらに関心 をもってもらえるように話し合い工夫をしている| 「生徒の定数削減により、先生・生徒も減り、マン パワーが不足、そのためPTA活動は学校の魅力を 高める活動を中心としている| などの発表があり ました。

まとめますと、私たち保護者自身が積極的に学 校や子どもたちに関わり、子どもと共に学び成長す ることこそが、子どもたちに良い影響を与えるとい うことを再認識しました。

発表後の質疑応答も大変盛り上がり、とても充 実した分科会になりました。

(金田淳理事・栃木県)

第2分科会報告

「進路指導と PTA |

~ 「有徳の人」を育てる希望進路の実現~

第2分科会は、清水文化会館において4つの高 校から研究発表がなされ、その後質疑、そして最 後に静岡大学の先生方から助言を頂きました。

SSH指定校である山形県立鶴岡南高校からは、 各分野で活躍している方を講師に招いて生徒と保 護者を対象に講演会を行っていること等が発表され ました。

岐阜県立中津高校からは、保護者のための進路 サポート勉強会を年に8回から9回開催し、各回とも 100名以上が参加していること等が発表されました。

五代友厚公が創立した大阪商業講習所を前身と する大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校からは. 保護者と生徒が一緒に参加する大学キャンパスバス ツアーを実施していること、知名度を上げる必要性 を感じていること等が発表されました。

宮崎県立高鍋高校からは、社会人を講師に招き. 職業選択の理由、働く喜び・厳しさ等を話して頂く 「高鍋高校ワクワク講座」の紹介、PTA視察研修 において県内の優良企業を見学したこと等が発表 されました。

分科会

特別分

4校からの研究発表の後、会場から、質問が出され、また、学校の知名度を上げるためにはメディアの力をお借りすると良いとの意見も出されました。

助言者の山﨑保寿教授からは、有徳の人の3要素の紹介がありました。内容は大会要項の20頁に載っております。1つ目が個人として自立した人、2つ目が人との関わり合いを大切にする人、3つ目がより良い社会作りに参画し、行動する人です。その上で、PTAが行う挨拶運動は、人との関わり合いを大切にするという有徳の人の2つ目の要素につながるものであること、文化祭においてPTAがお店を出すことや生徒のボランティア活動に保護者も参加することは、より良い社会作りに参画するという3つめの要素につながるものであることの指摘がありました。私たちが日頃行っているPTA活動は、有徳の人を育てることにつながる活動だという気付きを得ることができました。

また、助言者の宇賀田栄次准教授からは、大学キャンパスツアーに親子で参加するようなとき、振り返りの時間を設け、自分以外の参加者の気付きを共有することの大切さが指摘されました。また、社会人を講師として招く講座の際には事前学習と事後学習、生徒同士で話し合うことも有用である等の提案もありました。

他にもたくさんのことが報告され、活発に意見交換もなされました。発表者の皆さん、助言者の先生方の発言はいずれも時間内にまとめられ、予定していたスケジュールどおりに終了しました。内容とともに大会運営も素晴らしい第2分科会でありました。

(渡辺正和理事・岩手県)

第3分科会報告

「生徒指導と PTA」

~ 「有徳の人」を育てる「命を守る教育」の推進~

「命を守る教育」の推進をテーマに特色ある4校の研究発表及び情報交換を行いました。

· 千葉県立君津青葉高等学校

「高校生の健全育成を進めるための活動」をテーマに保護者が学校に来校する機会を増やす取り組みを行い、親子の対話のきっかけづくりになったとの発表がありました。

・富山県立富山西高等学校

「子どもたちへの関わり方の再考」をテーマに既存の活動の見直しを図り、挨拶指導、交通安全指導などPTA活動の活性化につながった発表がありました。PTA活動については「あせらず、くらべず、あきらめず」の言葉が印象に残りました。

·愛知県立春日井工業高等学校

学校独自の自転車運転免許制度に保護者も積極的に参加することで、子どもたちの自覚と責任を意識させることに効果をあげているとの報告がありました。「ぴたりぎゅっと春工PTA活動」のテーマも印象に残りました。

・熊本県立天草工業高等学校

「子どもたちの成長をサポート」というテーマで積極的に新しい取り組みを行い、活発に活動する様子が報告されました。「親と子のメッセージカードプロジェクト」では普段伝えにくい親子の思いをカードに記入することで、お互いを知ることができたそうです。

最後に助言者から、「各校ともPとTで子どもの教育を行っており、自律への一助となっている。安心安全を与える環境づくりにはまず学校が主体となるが、親が加わり親の力を見せることで深まります。 貴重な実践事例であり心温まる発表でした」との講評をいただきました。

(石坂兼人理事・富山県)

第4分科会報告

「家庭教育と PTA」

- ~ 「有徳の人」を育てる家庭教育の充実~
- 4校より発表していただきました。
- ·北海道室蘭清水丘高等学校

子どもたちを見守る大きな輪と題し、親が楽しんでPTA活動に関わり頑張っていれば子どもたちもその姿を見て頑張れる。また家族においても、たわいのない会話からコミュニケーションが生まれ、日常的生活がいかに愉しく大切であるかという発表がありました。

・東京都立板橋高等学校

ボランティア・清掃作業などにより子どもたちの自発的活動を引き出し、それと同時に地域への貢献、また皆で考える場として関心の高いテーマを募り、生徒たちが入り込みやすいポスターで告知をし、先生や保護者とのディスカッションをすることにより、疑問をもつ力、考える力、解決する力などにより子どもたちの自主性を養えるという発表がありました。

・兵庫県立尼崎稲園高等学校

幼稚園児から大人まで幅広く地域住民と清掃活動、お祭りなどに協力し、共同作業を通じ人権教育を養い、その過程において子どもたちが個々に将来の夢へと導かれていき、また保護者が学校への来場にあたり、メッセージカードへ自由に書き込み掲示することにより、子どもたちの思いが伝わり距離感も近くなったとの発表がありました。

·香川県立高瀬高等学校

挨拶、掃除、服装、時間厳守、言葉遣い、そして何より笑顔を絶やさないことにより子どもたちへの自己肯定感や自信を引き出し、良き相乗効果が見受けられ、また短冊に三行メッセージを書き込み掲示することにより子どもたちへの思いを伝え、親としての関わりを大切に、親たちが自分たちを応援してくれているということが伝わり、人間力の向上にもつながっていくとの発表でした。

そして助言者 漁田俊子先生、石田純夫先生より、 思春期の子どもたちは親をウザイと思うが最終的に 親の背中を見せることにより家庭教育、人間力の向 上につながり、親が元気であれば子どもも元気でい られる。家庭・地域において、子どもたちに安心感 を保障してやること、子どもたちのペースに合わせ、 保護者・大人として見守ってやる大切さ、何よりも 子どもたちが主語・主役としてあげることが大切で あると、助言いただきました。

(細渕修理事・三重県)

₩特別第1分科会 報告

「有徳の人を育てる 防災・減災教育の推進」 ~防災・減災能力の醸成~

静岡大会にふさわしいテーマで、800名を超える 参加者を迎え、行われました。

静岡大学 防災総合センター長、岩田教授の基 調講演のあと、学校、保護者、地域の代表、そし て高校生をパネリストに迎え、それぞれの立場で、 防災についてお話いただきました。

基調講演からは3点、

1つ目。最近使われるようになった「減災」という表現は、「これくらいやっていれば、ある程度防 げるだろう」という甘えにつながる。原点に立ち返り、 あくまで被害ゼロの「防災」を目指すべき。

2つ目。同様に最近よく使われる「想定外」という言葉。こちらは、「想像力の欠如」が原因。まれにしか遭遇しない災害を、いかに具体的に自分自身でイメージできるかが、防災対策のカギとなる。

3つ目。「自助、共助、公助」を並列に表現することが多いが、まずは「自助」自らの命は自ら守る。次に「共助」地域での助け合い、そして最後にそれを行政がしっかり支える「公助」。行政に頼るだけでなく、このような意識を持つべき。などのお話が心に残りました。

パネルディスカッションでは、「災害時に、主体的 に行動できる人材育成が必要。高校生には、自分を守り、かつ地域を守るリーダーになって欲しい。」 と期待する声が多くありました。それに応えるように、岩手の高校生との交流体験を交えた高校生パネリストたちの力強いコメントに、感動しました。加



えて彼らの「自分たちは被災者との交流を通じ、地域防災に強い意識を持ったが、まわりの若者にもそれを伝えていかなければならない。それが、つらい体験を直接聞かせてもらった私たちの責任だ」との発言が印象的でした。

防災の先進地域であるこの静岡で、静岡県の講師、パネリストから、それぞれの防災への想い、また静岡県独自の取り組みについてお話を聞かせていただけたことは、特に東海地域以外のみなさんにとって、大変刺激的で、気付きの多い素晴らしい分科会であったと思います。

(玉田圭司理事・兵庫県)

制 特別第2分科会報告

「有徳の人」を育てるグローバル教育と コミュニケーション能力の育成

この度の分科会は2部構成となっており、前半の 松香先生による基調講演では現在の日本の外に向 けたグローバル化(国際貢献活動)や、内に向けた グローバル化(多文化共生)にふれ、JICAなど 多くの予算をかけた国際貢献活動も重要であるが、 民間で行う様々な活動の大切さを説明されました。

また、グローバル化に対する教育については、現在は社会全体のグローバル化に教育が追い付いてなく2020年から変更される大学入試制度において英語試験も対象となっており、入試制度が変われば高校教育が変わり、大学と企業の連携が行われるようになれば、高校・大学の教育が変わるということも気付かされました。

また、今の教育現場の状況についてもふれられ、 小学校の英語教育は上手くいっているが、中・高 校ではこれまでの入試型英語教育にコミュニケー ション英語を乗っけているので上手くはいかないこ とも説明されました。

後半は松香先生をコーディネーターとし、保護者

代表の原さん、日系ブラジル人で浜松市在住の現役 大学生 田中さんと地元高校生2名、袴田君と大高 さんでのパネルディスカッションを行いました。

冒頭での自己紹介では会場全員が互いに5行の 自己紹介を行いました。5行の自己紹介とは「引っ 込み思案」な日本人も簡単に行えるもので、

- ① Hello ② My name is Tadashi Itaya
- ③ I like riding a bike ④ I like running too
- ⑤ Thank youとなり、私も登壇し皆様の前で英語で自己紹介させていただきました。

パネルディスカッションでは日系ブラジル人として 育った田中君の苦労したことや、現在行っているグローバルとローカルを合わせたグローカル活動の紹介、今後は語学力を活かした仕事につきたいとの目標も語っていただきました。

また、袴田君は将来、医師を目指し、今努力しているが、一度は海外留学し語学力を身につけ、外国人患者さんと接する際は母国語で対応してあげたいと強い思いを語られました。

大高さんは大きな目標はないけれど少しずつ英語の勉強を始め、実践的な英語を身に付けたいと、保護者代表の原さんは子どもたちにはちょっとずつでいいから海外のいろいろな体験をしてほしいし、そのシステムを作っていくのは大人の責任であると話されました。

最後に松香先生からは外国語ができるからそれに対応した仕事を選ぶのではなく、まずは日本人として日本の仕事がしっかりとできるように学び、これからますます進む人口減少社会において「小さくても輝ける国」を創ってほしいと締められました。

当初、「グローバル教育とコミュニケーション能力の育成」というタイトルから壮大な話が主になるのかと思っておりましたが、至ってローカルな「今自分ができるグローバル活動は何か」また、「コミュニケーションは自分の考え方次第であること」に気付かされた会でありました。

(板谷正理事・山口県)